



東南面空撮 庁舎の東・北には戸建て住宅、西側には工場が建ち並ぶ

大泉町庁舎

群馬県邑楽郡大泉町

設計・監理／桂設計

施工／関東・河本・石川・本田大泉町庁舎特定建設工事共同企業体



東南側外観

設計主旨

一 計画背景

電機メーカーや自動車メーカーの大規模工場が主産業の工業都市である大泉町は、第一次産業が非常に少ない自治体である。また、町の面積は約18km²と県内最小である一方で、人口は4万人を超えており、人口密度が高い。また、人口の2割以上が外国人であり、多文化共生の先進自治体として全国的にも有名である。

旧庁舎は、昭和49年の建設から50年以上

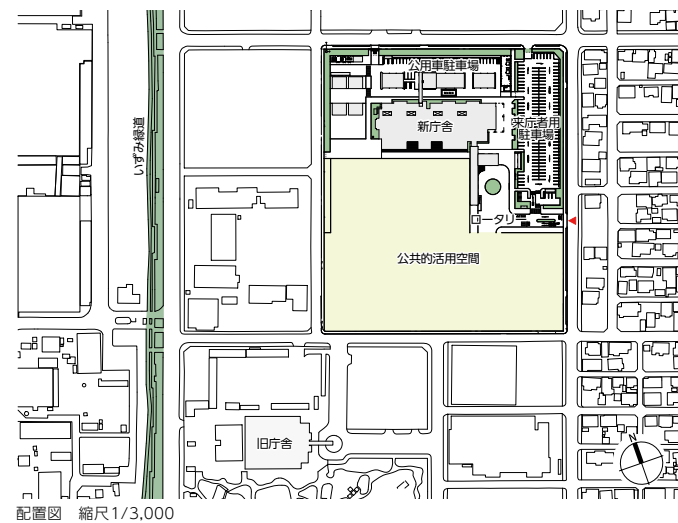
が経過しており、老朽化と耐震性能が課題となっていたが、中央に大空間を有し、南北に大きく跳ね出した特徴的な形態故に耐震補強の難易度が極めて高いことが判明したことから、全面的な建替えとして方針が決定された。

一 配置・外構計画

計画敷地は旧庁舎の近隣に総面積約4.3haの庁舎建設用地を取得し、新庁舎は用地の北側約1/3に配置した。残りの部分は「公共的活用空間」として、災害対応も視野に入れた多目的広場（令和8年度工事予定）や公共

施設移転用地とするなど、将来のまちづくりの中心拠点として活用される展望がある。

庁舎を敷地北側に配置するにあたっては、北側の住宅地に配慮し、十分な離隔距離を確保するとともに、その間に車庫棟などの平屋建ての付属棟を配して、圧迫感や日影の影響に配慮した配置としている。新庁舎は東西に長く、地域特有の北西からの卓越風である赤城おろしを遮るように配置して、メインアプローチを東南角とした計画としている。



配置図 縮尺1/3,000



南側待合コーナー前にはテラスを設け、将来的な公共的活用空間との連携に配慮



エントランスホール

― 平面計画

新庁舎の計画においては、工業都市であり多文化共生の先進自治体にふさわしい「シンプルで機能的な構成」と「多様性や変化に対応する柔軟性」を基本コンセプトとして設定した。町民が利用しやすい1・2階は、南側から「待合エリア」「執務エリア」「バックヤード」の3エリアが平行に並びシンプルな構成とした。また、東側のブロックには多目的ホールや町長室など執行部の諸室を配置している。議場および議員執務室は3階に配置し、独立性を確保している。3エリアの中央に位置する執務エリアは外気に接しないため、執務環境の改善および中間期の自然通風に配慮して、4つのエコシャフト(光庭)を配置した。あわせて手動の換気専用窓を随所に設置し、自動化に偏らないエコ建築とした。また、職員の移動負担の軽減や職員同士の交流の促進を目的に、1階と2階の執務室を

ダイレクトにつなぐ階段を中央に設けるなど、使い勝手と居心地の良さを感じるウエルビーイングな執務空間を目指した。さらに、東側のピロティと一体的な利用も可能な多目的ホールのほか、3階の会議室や議場については夜間・休日の地域開放を予定しており、各所に施錠可能な管理扉を設けている。

― 断面・立面計画

戸建て住宅が建ち並び周辺環境との調和に配慮し、南側はひな壇状に、北側は縦方向に分節されたファサードとしている。これが新庁舎全体の外観上の特徴となっている。一見すると複雑な形態に見えるが、必要な機能を並べ、積み上げた機能的な構成となっており、ヒューマンスケールと工業都市らしい佇まいの両立を目指した。色彩はパールホワイトを基調とし、随所に配したステンカラー調の金属が凛とした風格を醸すことを意図した。

― 構造計画

新庁舎は低層建物であるため、構造形式は耐震構造としている。上部の主要構造にはプレキャストコンクリート(PCa)圧着関節工法を採用し、職人不足に対応した現場施工の省力化と高い施工品質の確保を図った。あわせて、高い耐震性・耐火性・耐久性を有しながら、レイアウト自由度の高い均質な大空間を実現している。

また、適宜鉄骨造を併用することで、特徴的な外観を合理的に成立させている。

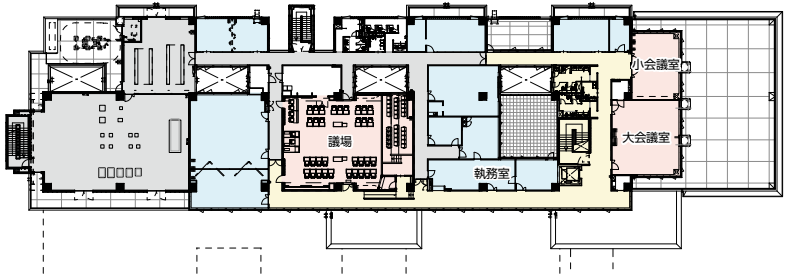
― 環境計画

環境面では、建物中央部に全階にわたる光庭「エコシャフト」を設けるとともに、高効率・省エネルギー型の設備機器や、防災面でも有効なコージェネレーションシステムを採用している。また、井水を取りし、雑用水や空調熱源として活用することで、「ZEB Ready」を達成している。

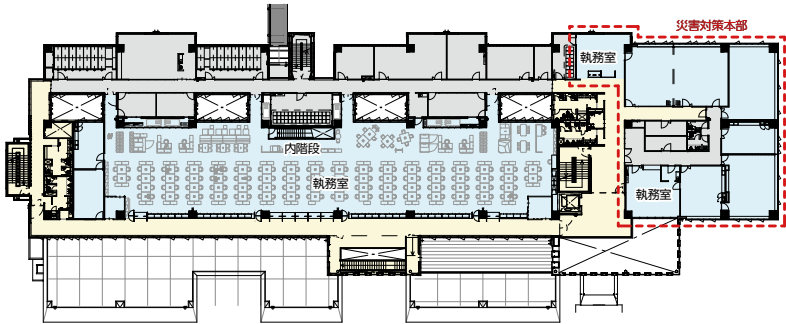
(高井陽太／桂設計)



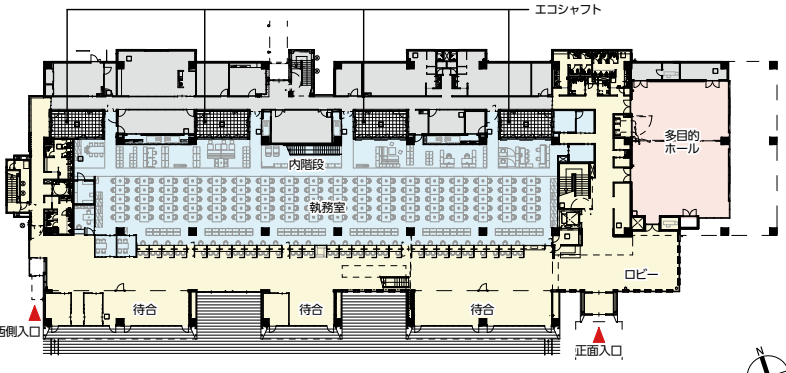
上／3階議場* 中／1階スタッフルーム* 下／1階エントランスより窓口を見る



3階平面図



2階平面図



1階平面図 縮尺1/1,000



左上／1階多目的ホール ピロティとの一体利用に配慮 右上／2階執務室 中央に執務専用の内階段を計画し、上下階のスムーズな連携に配慮* 下／正面夜景

大泉町庁舎 データ

所在地 群馬県邑楽郡大泉町日の出51-1

主要用途 庁舎

建築主 群馬県大泉町

設計・監理 桂設計

担当／総括：高井陽太 建築：後藤至誠、今野祐太、関口祐世 構造：金森徳二郎、瀧澤正明 設備：三宅修、菅原麻香、蓮池真実子、石井圭吾 監理：高井陽太、後藤至誠、金森徳二郎、瀧澤正明、三宅修、石井圭吾

設計期間 2023年2月～2024年3月

工事期間 2024年7月～2026年3月

〔建築概要〕

敷地面積 28,028.46㎡

建築面積 4,751.56㎡

延床面積 8,560.71㎡

建ぺい率 16.95% (許容60%)



高井 陽太……たかい ようた

1970年東京都生まれ。1995年千葉工業大学大学院建築工学科建築学専攻修了、同年桂設計入社。現在、同社第1設計室長



後藤 至誠……ごとう まこと

1983年長崎県生まれ。2008年熊本大学大学院自然科学研究科建築学専攻修了、同年桂設計入社。現在、同社第1設計室次長

容積率 27.72% (許容200%)

構造規模 RC(PCa)造一部S造 地上3階

最高高さ 17.11m

軒高 16.56m

階高 4.64m、4.16m

天井高さ 2.70m

主なスパン 9.6m×12.0m

道路幅員 15.0m

駐車台数 来庁者用：計148台

地域地区 第一種中高層住居専用地域

〔設備概要〕

電気設備 受電方式／高圧6.6kV本線1回線(屋内キュービクル式) 変圧器容量／1,100kVA(1φ3W200kVA、3φ3W800kVA、スコットランス100kVA) 予備電源／非常用発電機(屋外用ディーゼルエンジン低騒音型200kW)、太陽光発電設備

空調設備 空調方式／コージェネレーションシステム＋排熱投入型吸収式冷凍機(執務室・共用部など)、電気ヒートポンプ(その他) 熱源／電気、都市ガス(中圧ガス)、井水、太陽熱

衛生設備 給水／受水槽＋加圧給水方式(雑用水は井水利用) 給湯／電気温水器、小型エコキュートによる局所給湯方式 排水／汚水雑排水：公共下水道直接放流 雨水：敷地内貯留浸透(オーバーフローを公共下水道に接続)

防災設備 消火／屋内消火栓設備、自動火災報知設備、業務兼用型非常放送設備、誘導灯、非常用照明設備、消火器、避難器具 排煙／自然排煙

昇降機 15人乗×1基

〔主な外部仕上げ〕

屋根 アスファルト防水屋根保護防水密着断熱工法、断熱シート防水(高耐久仕様)

外壁 弾性系仕上塗材、アルミスバンドレル、アルミ複合パネル等

建具 アルミ製建具、鋼製建具

外構 透水性アスファルト舗装、透水性インターロッキング舗装等

〔主な内部仕上げ〕

執務室・共用部 床／フリーアクセスフロア＋タイルカーペット、複合フローリング(群馬県産杉突板) 壁／EP塗装、不燃化粧板 天井／グラスウールボード、岩綿吸音板

議場 床／タイルカーペット 壁／木製リブパネル、EP塗装、不燃化粧板 天井／不燃軽量天井材

多目的ホール 床／複合フローリング(群馬県産杉突板) 壁／木製リブパネル、不燃化粧板 天井／岩綿吸音板

撮影／スタジオ タケウチ 竹内良男

*撮影／近代建築社(根本健太郎)

協力会社

電気設備工事、機械設備工事	グ	ン	エ	イ
解体工事	ハ	ツ	ガ	イ
仮設工事	松	村		組
杭工事	東	建	エ	ン
鉄骨工事	中	里	鉄	工
型枠工事	ア	ク	ティ	フ
コンクリート打設工事	播	磨	谷	建
生コンクリート納入	須			永
P C a P C 工事	黒	沢	建	設
屋根・外壁・樋工事	小	林	板	金
金属工事	石			塚
金属工事	ナ		ガ	タ
金属工事	明			和
内装工事	古	浦	産	業
内装仕上工事	ヨ		シ	ダ
鋼製建具・硝子工事	田			尻
木・アルミ複合断熱建具工事	ニ	ュ	ー	ス
シャッター工事	三	和	シ	ヤ
防水工事・シーリング工事	群	馬	建	水
内装仕上工事	シ	モ	ヤ	マ
サイン工事	コ		ッ	ク
外構工事	真	仁	田	士